

研究報告書

自閉スペクトラム症の子どもの幸福に関する基礎的研究

分担研究者 内山登紀夫 福島学院大学
研究協力者 鈴木さとみ 福島学院大学
小野舟瑛 福島学院大学

研究要旨

本分担研究は、自閉スペクトラム症などの神経発達症のある子どもの主観的幸福（Subjective Well-being：SWB）を測定するために必要な基礎的知見を得ることを目的としている。本年度は、SWB の尺度である Personal Well-Being Index for School Children（PWI-SC）を日本語に翻訳し、その信頼性と妥当性を検討した。

11歳～15歳（小学5年生～中学3年生）までの日本の一般児童とその母親を対象にオンラインでアンケート調査を実施し、子どもと母親それぞれの主観的幸福度、子どもの自己評価の健康関連 Quality of Life（HRQOL）、親評定の子どもの HRQOL、子どもの自己評価の子どもの強さと困難さアンケート（SDQ）、親評定の SDQ、社会経済的状況について回答を求めた。

354 ペアの親子から回答を得、うち、回答に不備のあった者を除く 331 ペア（男児の親子 166 ペア、女児の親子 165 ペア）を解析対象とした。

本調査で用いた主観的幸福度尺度（Personal Well-Being Index for School Children: PWI-SC）の日本の一般児童における内的整合性は非常に高く（ $\alpha = .91$ ）、尺度としての信頼性が確認され、日本の子どもに対しても有効に機能することが示された。日本の子どもの PWI-SC 得点はおおむね 70～80 点台で推移していたが、オーストラリアの一般児童と比較して、健康以外のすべての領域で有意に低く、日本の子どもの SWB の相対的な低さを示唆すると考えられた。今後、本尺度を神経発達症の子どもを対象とした幸福研究に活用していく予定である。

A. 研究目的

本分担研究は、自閉スペクトラム症などの神経発達症のある子どもの主観的幸福（Subjective Well-being：SWB）を測定するために必要な基礎的知見を得ることを目的としている。本年度は、日本の一般児童を対象に主観的幸福度の測定を行い、選定

した尺度が、日本の一般児童のサンプルにおいて内的信頼性を示すか確認することを目的とした。

現在、わが国で翻訳され広く使用されている Quality of Life（QOL）の尺度の多くは健康関連 QOL（Health related Quality of Life :HRQOL）が中心である。HRQOL は

ウェルビーイングの測定に関連づけて論じられているが、HRQOL 尺度は、客観的変数（例：身体的健康）と主観的変数（例：健康への満足度）を同じ構成概念で測定していること、感情機能の測定が不足していること、身体能力に関する判断から QOL の低さを推測することは差別的認識をもたらしかねないことなどが指摘されている（R.A.Cummins et al., 2004）。

また、神経発達症のある子どもの場合、コミュニケーションの困難さや認知の偏りなどのため、自身の生活の質を報告する際に困難を伴う場合がある（Tavernor et al., 2013）。一般的には、保護者などによる代理評価が用いられるが、代理評価の場合、身体的健康や行動などといった観察しやすい項目とは対照的に、心理社会的領域や主観的な感情、痛みや不快などの領域で、保護者の代理報告と子ども自身の報告の間の一貫性が低いという報告もみられる（D Khanna et al., 2022）。

そこで、我々は、主観的幸福感を測定する尺度として、平易な文章で記され、直感的に回答が可能な Cummins ら（2023）によって開発された Personal Well-Being Index for School Children (PWI-SC) を用いることとした。PWI-SC は、「認識された生活の質の状態（perceived quality of life）」を構成概念とする単一因子構造を有する尺度である。

B. 研究方法

1. PWI-SC の翻訳：PWI-SC は、原著者である Deakin 大学の Robert A. Cummins 教授の許可を得た上で、第3者が日本語への翻訳を行った。翻訳の

妥当性を高めるために、日本語を母語とする小学生4名（小学2年生2名、小学3年生2名）を対象に、使用感に関するインタビューを実施した。その結果をもとに日本語訳を修正し、さらにバックトランスレーションを行い、日本語版 PWI-SC とした。

2. オンライン調査：

2-1. 対象：11歳～15歳（小学5年生～中学3年生）までの子どもとその母親

2.2. 方法：質問紙調査

2.3. 手続き：オンライン会社に登録する母親に事前に調査の趣旨について連絡を行い、子どもと親のそれぞれについて個別で回答を行うことに親子ともに同意が得られた者に対して、調査会社からオンライン調査票が送付された。

2.4. 調査内容：

(1) 子ども

①SWB：PWI-SC 日本語版

②HRQOL：KIDSCREEN10

Index 及びいじめ等に関する項目（こども版8～18歳対象）

③SDQ（Strength and Difficulties Questionnaire：子どもの強さと困難さアンケート）、11～17歳用／自己記入用

④基本属性や登校の状況など

(2) 母親

①SWB：PWI-A 日本語版

②HRQOL：KIDSCREEN10

Index 及びいじめに関する項目（親用）

③SDQ（Strength and Difficulties

Questionnaire：子どもの強さと
困難さアンケート), 親記入用

④基本属性, 社会経済的状況

2.5. 調査期間 2025 年 3 月

主観的幸福 (SWB) の測定には, 児童及び成人ともに Cummins らが開発した Personal Wel-being Index (PWI) を用いた. 最初に成人版である Personal Wel-being Index for Adults が開発され, その後, PWI-A と並行する尺度として PWI-SC が開発された. 両者とも多くの国において翻訳され, 確認的因子分析により構成概念妥当性および内的信頼性が検証されている (R.A.Cummins et al., 2013). PWI-A は著者らが翻訳し, 日本人の成人サンプルで内的信頼性を確認している. PWI は 1 つの全体的満足度 (幸福度) と 7 つの生活領域 (「生活水準」「健康」「達成」「人間関係」「安全」「地域とのつながり」「将来の安心」) の幸福度を尋ねるものである. 回答は, 0 から 10 までの 11 件法を用い, 分析ではデータを 0~100 の尺度に変換する.

健康関連 QOL (HRQOL) の測定には, Nezu ら (2016) が翻訳した KIDSCREEN-10 日本語版の自己記入用及び親用を用いた. KIDSCREEN-10 は, 10 項目で構成され, 1 (全くそう思わない) から 5 (とてもそう思う) の 50 点満点で評価され, 得点が高いほど, 子どもの健康関連 QOL (HRQoL) が高いことを示す.

SDQ は子どもの情緒や行動面の適応と精神的健康を把握するためのツールとして Goodman (1997) らによって開発された質問紙で, 神尾らによって翻訳され妥当性, 信頼性が確認されている (Moriwaki & Kamio, 2013). 25 項目からなり, 当ては

まらない・まああてはまる・当てはまるの 3 件法によって回答される.

社会経済的状況については, 母親の最終学歴, 現在の職業, 世帯構成, 子どもの数, 世帯年収, 暮らし向き, お住いの県, 自治体規模, 回答対象の子の放課後の活動などについて, 母親に回答を求めた.

2.6. 結果の分析には, SPSS statistics ver26 を用いた.

倫理的配慮：本調査は福島学院大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施された (承認番号：院 006). 回答については, 事前に参加説明を行い, 参加への同意を示した親子に実施し, オンライン調査への回答を終了することを以って同意とみなした.

C. 結果

354 ペアの親子 (男児 176 名, 女児 177 名, 答えたくない 1 名) からそれぞれ回答を得た. うち, ライスケールへの誤回答, PWI-A もしくは PWI-SC への回答で除外対象となる回答 (下位領域の全てにおいて最低得点もしくは最高得点を回答した場合, 問いに対する理解不足と判定され除外対象となる) をした 22 ペア (44 名) 及び性別不明の 1 ペア (2 名) のデータを除外し, 331 ペア (男児 166 名, 女児 165 名) を解析対象とした. 回答した母親の平均年齢は 45.65 歳 (SD=4.75, range=34-59), こどもの平均年齢は 12.93 歳 (SD=1.34, range=11-15), 基本属性は表 1 の通りであった.

(表1) 基本属性：母回答

	全体	男児	女兒
N	331(100.0)	165(49.8)	166(50.2)
子の年齢[平均]	12.9	12.8	13.0
母の年齢[平均]	45.65	-	-
こどもの数[N(%)]			
1人(一人っ子)	100(30.2)	53(16.0)	47(14.2)
2人	169(51.1)	81(24.5)	88(26.6)
3人	51(15.4)	28(8.5)	23(6.9)
4人	11(3.3)	3(0.9)	8(2.4)
きょうだい数[平均]	1.92	1.88	1.95
居住地域[N(%)]			
北海道・東北地方	24(7.3)	10(3.0)	14(4.2)
関東地方	141(42.6)	79(23.9)	62(18.7)
中部・北陸地方	50(15.1)	23(6.9)	27(8.2)
関西地方	71(21.5)	29(8.8)	42(12.7)
中国・四国地方	21(6.3)	12(3.6)	9(2.7)
九州・沖縄地方	24(7.3)	12(3.6)	12(3.6)
自治体規模[N(%)]			
大都市・東京都 23区及び政令市	137(41.4)	67(20.2)	70(21.1)
中都市	69(20.8)	36(10.9)	33(10.0)
小都市	95(28.7)	51(15.4)	44(13.3)
郡部町村	30(9.1)	11(3.3)	19(5.7)
世帯形態[N(%)]			
核家族世帯	282(85.2)	140(42.3)	142(42.9)
一人親世帯	30(9.0)	15(4.5)	15(4.5)
三世代以上同居世帯	10(3.0)	5(1.5)	5(1.5)
その他	9(2.7)	5(1.5)	4(1.2)
暮らし向き[N(%)]			
かなりゆとりがある	5(1.5)	3(0.9)	2(0.6)
どちらかと言えば ゆとりがある	121(36.6)	58(17.5%)	63(19.0)
どちらともいえない	82(24.8)	37(11.2)	45(13.6)
どちらかと言えば ゆとりがない	81(24.5)	49(14.8)	32(9.7)
全くゆとりがない	38(11.5)	21(6.3)	17(5.1)
分からない	3(0.9)	2(0.6)	1(0.3)
答えたくない	1(0.3)	0	1(0.3)

日本の一般児童において PWI-SC の内的整合性を確認するために Cronbach の α 係数を算出した。その結果、PWI-SC 全体の α 係数は .91 であり、十分な内的整合性が示された (表2)。

子どもと母親の主観的幸福及び子どもの KIDSCREEN-10, SDQ の評定を (表3) に示した。PWI-SC は子どもはおおむね 70～80 点の範囲であったが、PWI-A では、母親は概ね 50～60 点の範囲であり、子どもと比べて低かった。子ども全体では、「健康」と「人間関係」、「安全」において高い傾向を示した。子どもと母親ともに、「自己実現」と「将来の安心／将来の自分」において得点が下がり、特に母親の「将来の安心」は顕著に低い結果であった (図1)。子どもと母親の PWI の各領域では相関が認められ、特に「全体満足度」と「安全」において高い相関が示された (表4)。

性差の検討では、PWI-SC では、「全体満足度及」び「生活水準」において女兒の方が満足度が高く、男児では「人間関係」の満足度が高かったが、t 検定を行ったところ有意差は認められなかった。

日本の子どもの PWI-SC の測定結果をオーストラリアの一般児童(Tomyn ら, 2014) と比べたところ、健康以外のすべての領域で日本の子どもの方が有意に低かった(表5)。

PWI-SC の各領域と KIDSCREEN-10 総得点および SDQ の各下位尺度 (子どもの自己評定) との相関係数を算出した (表6)。すべての領域において、KIDSCREEN-10 との間に中程度から高い正の相関が確認され、性別で比較したところ、男児では中程度から強い正の相関 ($r=.569$)、女兒では中程度の正の相関 ($r=.466$) が認められた。

一方、SDQ の総合的困難度および各問題行動との間には、一貫して負の相関がみられ、特に PWI-SC の「地域とのつながり」や「人間関係」では比較的強い負の相関が

示された ($r = -.456, -.429$).

SDQ の自己評定では、「情緒の問題」及び「向社会性」において女兒のスコアは男児より有意に高く ($t < 0.01, t < 0.001$), 女兒は男児よりも内面の不安や抑うつ, ストレスを抱える一方で, 向社会的行動 (他者に対する思いやりや助け合いの行動) も高かった. 一方で, SDQ の親評定では, 「行為」, 「多動」において男児のスコアは女兒より有意に高く, 「向社会性」は女兒が男児より有意に高かった ($t < 0.5, t < 0.001, t < 0.01$).

D. 考察

本研究では, 日本の一般児童およびその母親を対象に主観的幸福感 (SWB) を測定し, 子どもの健康関連 QOL (KIDSCREEN-10) および心理社会的困難 (SDQ) との関連も含めて検討を行った.

日本の一般児童における PWI-SC の内的整合性は高く ($\alpha = .91$), 尺度としての信頼性が確認された. したがって, 本研究で用いた PWI-SC は, 日本の子どもに対して有効に機能していると考えられた.

Cummins ら (2014) は, SWB のセットポイントは通常, 0~100 点満点スケールで 70~90 点の範囲に分布するものと論拠づけている. PWI-SC の得点において, 日本の一般児童は多くの領域で 70~80 点の比較的高いスコアを示していたが, オーストラリアの同年齢の一般児童と比較して, 健康以外のすべての領域において有意に低いことが確認された. この結果は, 日本における子どもの主観的幸福感の相対的な低さを示している. さらに, 本調査対象の母

親は一貫して子どもよりも低いスコアを示した. 特に「自己実現」と「将来の安心」において両者ともに得点が低下しており, 母親の「将来の安心」は顕著に低かった. PWI の各領域においては, 子どもと母親の間に相関が認められ, 特に「全体満足度」と「安全」においては高い相関が見られたことは, 親子間で幸福感や安全感が共有されやすいことを示していると考えられる.

PWI-SC と KIDSCREEN-10 の関連では, すべての領域において中程度から高い正の相関が確認され, 特に PWI-SC の「人間関係」「地域とのつながり」など社会的側面との関連が強かった. HRQOL は子ども全体において主観的幸福感の有力な関連要因であると考えられるが, 性差別の検討では, 特に男児において関連が強く現れる傾向が示された.

SDQ の自己評定では「総合的困難度」や「行為の問題」「多動・衝動性」などの外在化された問題行動, および「情緒」「仲間関係の問題」といった内在化された困難は, いずれも PWI-SC と有意な負の相関を示した. 心理的・社会的適応の困難さが主観的幸福感を低下させる要因であることが明らかとなった. とりわけ「仲間関係の問題」は全体で $r = -.327$, 男児で $r = -.345$, 女兒で $r = -.309$ と比較的強い負の相関を示した.

親評定では, 他の多くの研究と同様に, 「多動」において男児のスコアは女兒より高く, 「向社会性」において自己評定, 親評定ともに, 女兒が男児より高かった. 女兒は男児よりも内面の不安や抑うつ, ストレスを抱える一方で, 向社会的行動 (他者に対する思いやりや助け合いの行動) も高

かった。男女とも「向社会性」の高さと幸福度の相関は弱いながらも一貫して正の相関を示した（全体 $r = .221$ ）が、女兒における向社会性と幸福度との相関は男児よりも低かった（女兒： $r = .194$ ，男児： $r = .218$ ）。このことから、とりわけ女兒においては、社会的期待や役割への同調としての向社会性が、内発的動機づけに基づいていない可能性が示唆される。高い向社会的行動が常にポジティブな心理的帰結をもたらすとは限らず、向社会的行動の背景にある動機づけの質や社会的要請との関係について検討を深める必要もあるだろう。

さらに、近年、自閉スペクトラム症（ASD）の子どもにおいて報告される「過剰適応」や「社会的カモフラージュ」は、外見上は適応的行動に見えても、心理的には負担感やストレスが増大することが示されてきている。

今後は、ASDの診断のある子どもを対象にし、ASDの子どもの幸福感を構成する要因について質的及び量的に検討していく予定である。

E. 結論

Cummins らは、HRQOL の代替として、①医学的症状、②主観的幸福感（SWB）、③心理的苦痛などの特定領域（抑うつ、不安、ストレスなど）をそれぞれ個別に測定することを推奨している。今回の我々の調査は、②主観的幸福感（SWB）の尺度である PWI-SC が日本の一般児童に用いることができるか検討したものである。

311 名に対して PWI-SC を実施し、本尺度の内的整合性は高く（ $\alpha = .91$ ）、信頼性が確認された。したがって、本研究で用い

た PWI-SC は、日本の子どもに対しても有効に機能していると考えられた。

F. 健康危険情報

特記すべき事項なし

G. 研究発表

1. 論文発表 なし 2. 学会発表 なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし

I. 引用・参考文献

Moriwaki A, Kamio Y (2014). Normative data and psychometric properties of the Strengths and Difficulties Questionnaire among Japanese school-aged children. Child and Adolescent Psychiatry and Mental Health.2014, 8:1.doi: 10.1186/1753-2000-8-1
Nezu S, Iwasaka H, Saeki K, Obayashi K, Ishizuka R, Goma H, Furuichi Y, Kurumatani N. Reliability and validity of Japanese versions of KIDSCREEN-27 and KIDSCREEN-10 questionnaires. Environ Health Prev Med. 2016; 21: 154-63.
R. A. Cummins (2005) Moving from the quality of life concept to a theory, Journal of Intellectual Disability Research
The International Wellbeing Group (2013) Personal Wellbeing Index-Adult(PWI-A) (English)5th Edition
Tomyn et al. (2020) A Rasch Analysis of the Personal Well-Being Index in School

Children, Disease Prevention and Health
Promotion

(表2) 子どもの自己評定(PWI-SC)：変数間の相関

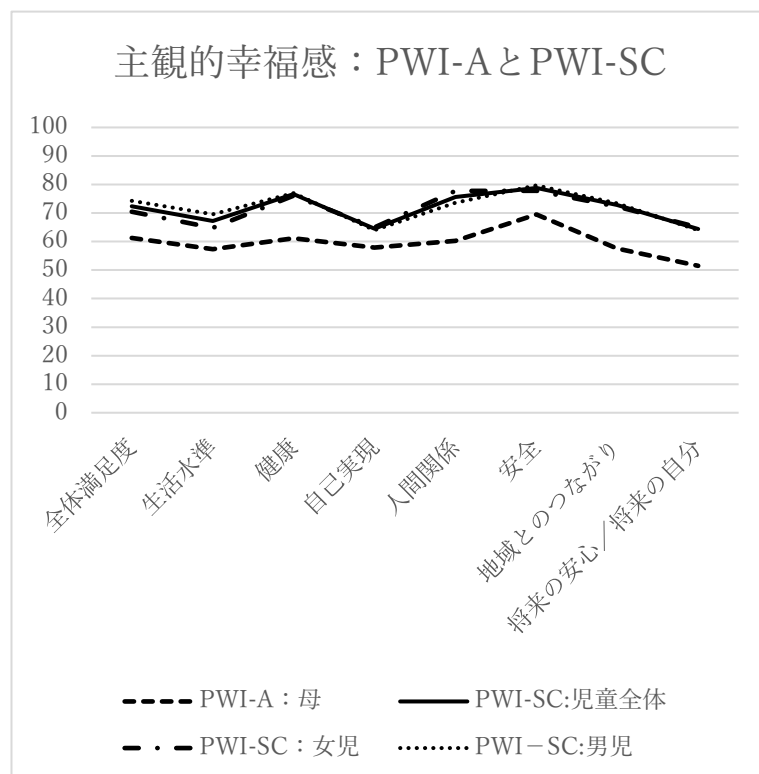
	1	2	3	4	5	6	7	8
1.全体満足度	—							
2.生活水準	.600	—						
3.健康	.502	.511	—					
4.自己実現	.580	.604	.564	—				
5.人間関係	.507	.479	.534	.543	—			
6.安全	.576	.575	.626	.511	.651	—		
7.地域とのつながり	.591	.571	.634	.632	.683*	.704	—	
8.将来の安心／ 将来の自分	.529	.458	.508	.612	.517	.520	.630	—

(表3) PWI 及び KIDSCREEN-10, SDQ

[得点の平均(SD)]

	親評定			子どもの自己評定		
	全体	子どもの性別：男 児	子どもの性別：女 児	全体	男児	女児
PWI	PWI-A(親自身の幸福感)			PWI-SC (子どもの幸福感)		
全体満足度	61.3(23.51)	60.8(25.00)	61.8(22.03)	72.4(19.73)	70.5(20.46)	74.3(18.86)
生活水準	57.3(25.00)	55.6(25.02)	59.0(24.94)	67.2(24.61)	64.8(25.63)	69.6(23.39)
健康	61.2(22.26)	61.5(21.82)	61.0(22.76)	76.6(21.70)	76.1(23.26)	77.0(20.10)
自己実現	57.9(23.57)	57.2(24.14)	58.6(23.04)	64.5(24.96)	65.0(24.44)	64.0(23.54)
人間関係	60.2(22.52)	60.1(23.47)	60.4(21.6)	75.6(22.56)	77.7(21.49)	73.6(23.46)
安全	69.5(20.90)	69.8(21.41)	69.2(20.45)	78.8(19.37)	77.8(21.19)	79.7(17.39)
地域とのつながり	57.6(21.16)	56.2(22.34)	58.9(19.89)	72.8(21.49)	72.3(22.65)	73.4(20.32)
将来の安心／ 将来の自分	51.5(24.44)	49.9(24.59)	53.2(24.25)	64.4(22.40)	65.0(23.57)	64.0(21.23)
KIDSCREEN10	(子どもの健康関連 QOL)					
総得点	38.62(6.09)	38.76(6.19)	38.48(6.05)	38.45(7.40)	39.19(7.28)	37.71(7.47)
SDQ	(子どもの情緒や行動面の適応と精神的健康)					
総合的困難さ	10.03(5.81)	10.39(5.85)	9.67(5.77)	9.55(5.97)	9.44(5.97)	9.66(5.98)
行為の問題	1.97(1.97)	2.19(2.02)	1.75(1.89)	1.81(1.60)	1.90(1.63)	1.71(1.57)
多動／不注意	2.88(2.30)	3.33(2.46)	2.43(2.04)	3.14(2.28)	3.36(2.26)	2.92(2.28)
情緒の問題	1.72(2.09)	1.57(1.86)	1.87(2.29)	2.52(2.43)	2.05(2.18)	2.98(2.59)
仲間関係の問題	3.46(1.48)	3.30(1.56)	3.61(1.39)	2.09(1.78)	2.12(1.82)	2.06(1.76)
向社会的行動	6.07(2.55)	5.62(2.72)	6.51(2.28)	6.32(2.31)	5.88(2.40)	6.76(2.14)

(図 1) 母親：PWI-A と子ども（男児・女児）：PWI-SC の領域スコアの傾向



(表 4)母親の自己評定（PWI-A）と子どもの自己評定(PWI-SC)の相関

		子どもの自己評定 PWI-SC (N=331)							
		1	2	3	4	5	6	7	8
親 の 自 己 評 定 PWI-A (N=331)	1.全体満足度	.417	—	—	—	—	—	—	—
	2.生活水準	—	.279	—	—	—	—	—	—
	3.健康	—	—	.259	—	—	—	—	—
	4.自己実現	—	—	—	.335	—	—	—	—
	5.人間関係	—	—	—	—	.234	—	—	—
	6.安全	—	—	—	—	—	.408	—	—
	7.地域とのつながり	—	—	—	—	—	—	.350	—
	8.将来の安心/ 将来の自分	—	—	—	—	—	—	—	.331

(表5)1 サンプルの t 検定：日本の一般児童とオーストラリア（2014）の一般児童の比較

	日本 n=331		オーストラリア n=1,106		<i>t</i>	<i>df</i>	<i>p</i>
	Mean	SD	Mean	SD			
全体満足度	72.4	19.73	77.51	12.67	-4.67	330	.000
生活水準	67.2	24.61	79.63	17.71	-9.20	330	.000
健康	76.6	21.70	75.43	20.58	.969	330	.333
自己実現	64.5	24.96	72.55	19.06	-6.09	330	.000
人間関係	75.6	22.56	79.94	17.44	-3.48	330	.001
安全	78.8	19.37	81.63	17.19	-.270	330	.007
地域とのつながり	72.8	21.49	80.14	18.06	-6.18	330	.000
将来の安心 将来の自分	64.4	22.40	73.28	19.11	-7.18	330	.000

(表6) KIDSCREEN10：親の他者評価・子の自己評価－子の主観的幸福度の相関

		PWI-SC (子の自己評価) (N=331)																							
		1.全体満足度			2.生活水準			3.健康			4.自己実現			5.人間関係			6.安全			7.地域とのつながり			8.将来の安心 /将来の自分		
		全体	男児	女児	全体	男児	女児	全体	男児	女児	全体	男児	女児	全体	男児	女児	全体	男児	女児	全体	男児	女児	全体	男児	女児
子の自己評価	KIDSCREEN10 総得点	.503	.569	.466	.405	.510	.323	.474	.399	.571	.467	.522	0.414	.573	.617	.527	.464	.561	.373	.532	.552	.525	.438	.446	.432
	SDQ：総合的困難度	-.404	-.433	-.381	-.278	-.351	-.207	-.334	-.3	-.377	-.325	-.318	-.332	-.429	-.409	-.447	-.373	-.429	-.314	-.456	-.431	-.487	-.411	-.366	-.462
	行為	-.368	-.372	-.356	-.281	-.366	-.178	-.219	-.24	-.192	-.174	-.164	-.188	-.206	-.278	-.151	-.287	-.346	-.212	-.265	-.31	-.212	-.229	-.265	-.191
	多動/衝動性	-.298	-.323	-.259	-.202	-.266	-.116	-.226	-.214	-.239	-.266	-.272	-.268	-.223	-.244	-.225	-.234	-.288	-.164	-.289	-.273	-.305	-.318	-.314	-.333
	情緒	-.228	-.287	-.225	-.172	-.243	-.154	-.238	-.192	-.306	-.271	-.268	-.279	-.379	-.283	-.436	-.215	-.284	-.179	-.341	-.314	-.393	-.347	-.262	-.437
	仲間関係	-.327	-.345	-.309	-.186	-.202	-.165	-.307	-.273	-.349	-.221	-.238	-.204	-.447	-.452	-.45	-.399	-.400	-.401	-.454	-.423	-.489	-.288	-.259	-.324
	向社会性	.221	.218	.194	.145	.194	.051	.227	.221	.236	.182	.231	.141	.307	.381	.285	.302	.356	.221	.320	.349	.287	.320	.390	.256